

税理士事務所の専門性の高さを実感 自分らしい「働く」を広い視野で見つめ直す

参加のきっかけ：

大学も3年生になると、同級生が続々とインターンシップ（IS）に行く姿を見るようになりました。自分も行かなくてはと少し焦り、IS参加を決めました。大学では会計学を学ぶゼミに所属していましたので、漠然と金融機関をIS先に考え、大学3年の夏に地元岩手県の地方銀行など複数の地域金融機関のISに参加しました。そのときの金融機関の印象は、金融商品をセールスするというイメージが強く残りました。自分の会計学の知識を生かすには、もっと専門的な仕事があるのではと思い、ジョブカフェいわてに相談し、大学3年の冬に岩手税理士法人のISが実現しました。

参加してみて：

ISに参加し、税理士法人は「プロ集団」だと感じました。自分の志望動機は「大学で学んだ会計学を生かしたいです」というものでした。入職し、プロとして活躍するためには生半可な気持ちではなく「税理士を目指す」という強い気持ちを持っていないと通用しないのだと痛感しました。具体的には、企業監査に同行させていただきました。訪問先のリース会社では、財務面での専門的な助言をする場面などを目の当たりにしました。税務の知識はもちろんのこと、クライアントの業界に関する動向も勉強していないと話についていけないということを感じました。幸いにも訪問先の社長が私と同じ大学出身だったので会話に加わることができましたが…。税理士になるためには専門の勉強だけでなく、各業界についても学ばないといけなと思いました。ISを通じて税理士のプロ意識の高さを感じると同時に「自分に向いたほかの業界があるのではないか」との思いが生まれました。そんな気づきを与えてくれた受入先の税理士事務所には大変感謝しています。

voice: サポートデスク スタッフから

「大学時代の学びを生かして」。そんな志望動機でIS先や就職先を選ぶ学生さんも少なくありません。木内さんの場合もそんなことから、今回税理士事務所のISを選びました。しかし、実際にISを経験し、その専門性の高さなどを実感したことから「大学の学び」にこだわらず、広い視野で自分の仕事を見つめ直すことになりました。3年夏に金融機関、冬には税理士法人、それ以外にも小売り、営業、サービスなど計約10社のISに参加した木内さん。さまざまなISの経験、体験は無駄にはならず、翼を大きく広げた就職活動で、最後には製造業の営業職の内定を得ました。一步を踏み出し、いろいろ体験してみる。就活のキホンの一つかもしれません。

体験したのは /

木内 陵太さん

(盛岡市出身)

関東学院大学

経営学部経営学科

大学では経営企画と会計学を学んでいます。3年次にはコロナ後、横浜市に訪日観光客を誘致するための事業提案をしました。水族館で物品販売のアルバイトを2年間続けました。うまくいかないこともありました。が、陳列の工夫などをして売上アップを実現しました。

実施プログラム /

地元で規模が大きい税理士事務所で
ワンデーのインターンシップ

実習先：岩手税理士法人

所在地：盛岡市高松4-1-8

事業内容：

- ・会計帳簿の記帳指導、自計化システムの導入支援、税務相談
- ・法人及び個人の確定申告書類作成
- ・相続税申告、贈与税申告、経営承継支援
- ・医療法人・社会福祉法人・公益法人・NPO法人・宗教法人の会計・税務顧問
- ・経営計画書の策定支援

実施プログラムの主な内容

- ・税務に対する事務の体験
- ・企業訪問の同行
- ・先輩社員との懇談